

## 尿沈渣検査にて治療に導くことが出来た膀胱上皮内癌の一例

### 小規模施設での事例

◎浦壁 順一郎<sup>1)</sup>

医療法人社団兼愛会 前田医院<sup>1)</sup>

【はじめに】尿沈渣検査は非侵襲性の検査であり、日常、スクリーニング検査として、また腎泌尿器系の疾患が疑われる時に頻繁に行われる検査である。

通常、尿中の血球類、上皮細胞類、円柱類、微生物・寄生虫類、塩類・結晶類などを確認同定し強拡大あるいは弱拡大でどの程度の数が有るか、あるいは全視野中に出現があるなどを結果として報告するが、異型細胞（悪性細胞）の検出も可能な検査である。

【経過】腎泌尿器科、皮膚科・美容皮膚科、透析施設を有する病床数19床の当院において約半年前より頻尿があり検診にて尿管結石を指摘された肉眼的血尿が無い患者の尿沈渣検査で異型細胞を検出報告し、その後の精査で膀胱の上皮内癌と診断され、治療導入された。

【考察】膀胱の上皮内癌は平坦病変であり一般的な尿路上皮癌の様に乳頭状に隆起する病変ではないため肉眼的血尿である事は少なく、細胞診検査を行うに至らない場合もあり得る。

しかし尿沈渣検査は肉眼的血尿が無くても、検査が施

行され、また上皮内癌は異型度が高いため、その異型細胞を検出出来る可能性があり、上皮内癌検出には尿沈渣検査の威力が発揮される。

また上皮内癌は放っておくと筋層浸潤がんに進行する可能性があるため、早期発見と適切な治療が重要であり、顕微鏡と遠心機そして尿沈渣専用の備品があれば小規模施設でも実施できる尿沈渣検査による上皮内癌検出は非常に有効な検査であると思われる。

【まとめ】今回、当院において肉眼的血尿がなく膀胱がんなどが疑われていない患者の尿沈渣検査で異型細胞を検出報告し治療へ導くことが出来た症例を経験した。

小規模施設でも実施可能な尿沈渣検査で患者の生命予後を改善できる可能性があり、小規模施設においても今以上の尿沈渣検査の精度保障がなされることが望まれる。

連絡先 0957-62-6501